平成25年度　第2回東松島市
復興まちづくり計画市民委員会

復興事業の進捗状況報告と意見交換　まとめ

2013.7.2

	①コミュニティ再生支援事業	②教育環境の充実と文化継承、学校の再建（小中学校復興事業）	③震災がれき対策（災害廃棄物処理事業）
質問 →回答	●野蒜地区の移転は、平成28年度から引き渡し予定である。現在は近くに住んでいない人もいる状況で、どのようにコミュニティづくりを行っていくのか？ →総会などを開催して顔を合わせる機会を増やしていく。 ●飛行機の騒音に関する苦情への対応で、仮設住宅の入居期間がいつまでなのか知りたい。 →仮設入居期間は原則入居後4年である。最も遅くなるのは野蒜地区で平成28年の予定である。 ●小野駅前の自治会長は行政に認められてないので手当がつかない。移転先では自治会の枠組みを新しく見直すのか？ ●高台移転先では旧コミュニティを大事にしたい。高台移転先と旧コミュニティとの兼ね合いはどのようにしていくのか。 →仮設入居者の移転先への希望は聞いて取り入れる。	●鳴瀬第二小の完成、野蒜地区の高台移転先の完成、JRの開通のスケジュールはどうなっているのか？ →JRが先に開通予定で、鳴瀬第二小と高台移転はほぼ同時期で、平成28～29年度に完成する予定である。 ●ツリーハウスは市民でも利用できるか？ →市民は利用できる。まだ工事中で案内表示はしていない。 ●浜市小や宮戸小の跡地利用計画は？ →浜市小跡地は、校舎は残す方向で利用計画を策定する。 →宮戸小の校舎は解体予定だが、現在は野蒜自然の家キャンプ場の移設を計画している。 ●学校は、避難場所としての機能をもつのか？ →全ての学校を防災拠点として整備する。 ●学区はどうなるのか？ →以前の学区を統合する。学区外への登校希望も可能である。学校のコンセプトが違うので希望者が増える可能性もある。	●平成23年度、24年度の家屋解体は全て終わったのか？ →平成25年度に繰り越し事業として行っている部分もある。 ●今もがれき回収の要望はあるか？ →電話でお問い合わせ頂くことがある。 ●庭木処理の依頼が多いのではないか？ →根は取らないがそれ以外は回収している。 ●側溝の泥上げについては？ →市道脇については、建設課に相談してほしい。
感想 ・ 現状認識	●移転元地のコミュニティは世帯数も少なくなっている。 ●被災前→避難先→仮設住宅→移転先でコミュニティが次々に変化しており、時期も地域によってずれている。 ●民生委員は、孤立を防ぐためにお茶会を開いている（特にみなし仮設。10～15名が参加）。個別に見回りサポートも実施。 ●集会所がないので市に相談にしたが、予算がなく、ボランティアに改築してもらった。結果、希望通りに行かない面もあった。 ●大塩地区のコミュニティに知り合いを通じて入会した。楽しみながらコミュニティ活動ができ、人とのつながりを実感した。	●学校ができるまで時間がかかる印象を受ける。 →やはり高台移転先の造成に時間がかかるのが最大の原因。標準的な学校の設計ではなく、「森の学校」という夢があるコンセプトにしている事で、議論を丁寧に行い、良いものを作ろうと考えている。但し、「森の学校」にするから遅くなるということはない。 ●矢本第二中は、現在体育館が利用できず、地区の体育館を使っている。それなのに部活動の成績が良い。早く体育館ができるよう願っている。	●リサイクルの取組みはすばらしい。 ●これまで広報などしっかりと周知されてきたと思う。 ●がれき搬入は90%を越え、処理も既に50%を越えている。 ●車も東部運動公園に持ち込み県が処理している。 ●ストックヤードは、県有地を借りて使用している。
課題 ・ 改善要望	●コミュニティに対し、情報が共有されていないことが一番問題である。 ●自治会長の手当など制度が未整備な部分を改善するスケジュールを共有して、新しいコミュニティを作っていく必要がある。それをイニシアチブを取って進めるのは誰（行政？住民？）なのか示してほしい。 ●各地区の役員会等の会合に参加しない人がトラブルの原因になるので注視していく必要がある。 ●仮設居住者と移転元地居住者が、お互いの状況をわかっていない。移転元地居住者への支援も大事にしてもらいたい。 ●仮設住宅の問題点が見えにくい。 ●コミュニティとして仮設住宅との付き合いが難しい。声をかけていいのか、お互いどの程度まで踏み込んでいいのか。 ●みなし仮設支援を手厚くしてほしい。 ●地元の声を聞いて支援をしてもらえれば良い。 ●矢本ひがしネットコミュニティは、元々いる人が多く、仮設住宅は縁のない話となっていて疎外感がある。今後、新しく家を建てる人へのサポートが一番の課題になる。 ●矢本西コミュニティでは、立沼地区など様々な地域から移転してきている。寄せ集め状態で自治会をどうしていくのか？市の力を借りて、コミュニティ形成を行いたい。 →127世帯増えるので、市がサポートして、相談しながら1つの自治会を形成していく。	●「森の学校（鳴瀬第二小）」建設後は、「アファンの森財団」のフォローはどうなるのか？学校の先生だけでは、森の環境を十分に活かせないと思う。 →「アファンの森財団」には継続的な支援をしてもらえる計画であるが、市内で人材を育てる仕組みは必要と感じている。 ●「森の学校（鳴瀬第二小）」周辺は、子供たちが山を走り回れるコースを作ったほうが良いのではないか？ →トレッキングができる散策路などを「復興の森」で整備予定である。「復興の森」と学校の敷地を明確に分けて、学校の管理の負担が大きくならないように考えている。 ●統廃合が進められることで、学区が広くなるので、スクールバスの環境を早期に整えてほしい。 ●子供の通学の負担軽減のためにも鉄道復旧を急ぐべきだ。 ●統合により地元学習はやりにくくなる。統合前の良さをどう引き継ぐかは市民と検討しても良いのではないか。 →統合準備は2年程度かけて丁寧に行う。森や海を含めたカリキュラムも考える予定である。 ●「森の学校（鳴瀬第二小）」の進捗状況の情報が入ってこない。 ●情報が入らないことで、市民が転居を考えないよう「復興の森」や「森の学校」のPRをもっとすべき。 ●桜華小は、運動会などのイベントでは、人が溢れている。グランドが狭いのではないか？ →北側にサブグランドを計画中である。	●壊すか直すか迷っている人がいる。 →環境省で決められた3年を目処にがれきの回収を行っている。 ●ボランティアで回った感想として、被害の小さい人ほどそのままにしている人がいる気がする。 ●環境省事業以外の省庁事業で何とかなるものがないか情報提供してほしい。 ●がれき処理費用が決算ベースで、平成23年度が約146億、平成24年度が約143億かかっている。評価として費用対効果はどうなのかという視点は必要である。
事業評価について	●様々な情報が聞けてよかった。地域によって温度差があるので1つの物差しで評価は難しい。全体がわかるようなやり方がほしい。 ●評価は的を絞って行うほうが良い。進捗度は評価として少しズレているのではないか。	●資料に記載されている事項や、委員が関係する地区の状況に議論が偏る傾向があり、学校再編全体の視点での議論にはなりにくかった。	